

舞台芸術の国際ミーティング 「TPAM」でインドネシア舞踊に圧倒 された！ ～公演編～

2015.04.08

いいね！ 1 ツイート 0

いいね！ G+

TPAMは開催から20年を数える、アジアで最も歴史ある舞台芸術のプラットフォームです。世界各地からアーティストだけでなく、プレゼンター・プロデューサー・制作者たちを招き、舞台芸術に携わる人々がネットワークを構築するための場を提供するとともに、一般の方も楽しめる公演も行っています。

今回は、2月15日にKAAT神奈川芸術劇場で上演された、日本では見る機会が少ないインドネシアの現代舞踊を紹介します！

舞台関係者がネットワーキングする「グループ・ミーティング」については、こちら
[グループ・ミーティング編：舞台芸術の国際ミーティング「TPAM」に飛び入り参加！](#)

インドネシア民族舞踊×社会問題×コンテンポラリーダンス

日本の約5倍の国土と約2倍の人口を持つ東南アジアの大国インドネシア。実は1万3000以上の島々からなり、島ごとに異なる文化・伝統を持つ多様性に富む国です。

今公演の振付家エコ・スプリヤントさんは、そんなインドネシアの多彩な民族舞踊に造詣が深く、同時に現代社会の問題点にも深い関心を寄せて活動されています。今回の演目『Cry Jailolo (クライ ジャイロロ)』は、スプリヤントさんがインドネシア東部のジャイロロ島へ旅し、その地に住むサフ族の伝統舞踊「レグ・サライ」にインスパイアされて生まれました。

7人の踊り手はプロフェッショナルのダンサーではなく、スプリヤントさんがジャイロロ島で現地の人々と対話を重ね、共に作品づくりをする過程で約300人の中から選抜した少年たちです。実は、ジャイロロ島付近のテルク・ジャイロロ海では、現在ダイナマイト漁によってサンゴ礁が破壊されているという環境問題があります。この問題を背景にしながら、サンゴ礁の破壊が止まって魚たちが戻り、水の魂が再生することへの希望を踊りで表現しています。

気鋭の振付家エコ・スプリヤントによる演目『Cry Jailolo』

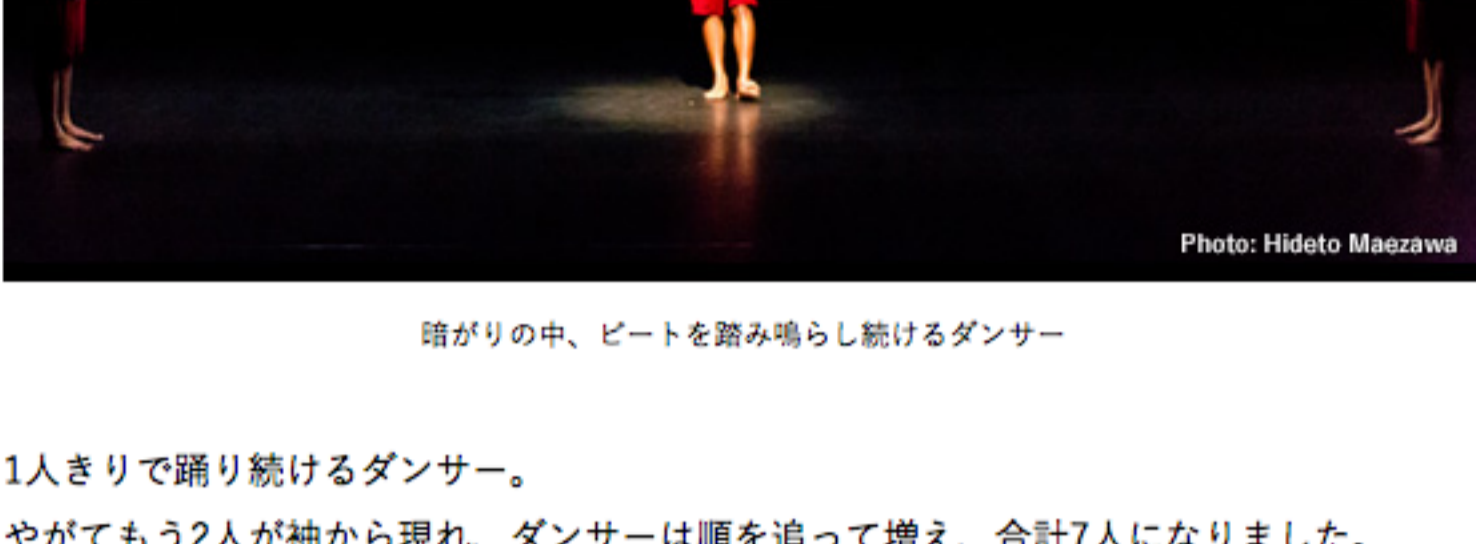
いよいよ開演。ホールは闇と静寂に閉ざされました。

しかし、どうしたことが、ひたすら静寂です。文明以前の夜を思わせるような、漆黒の闇が続きます。

やがて、規則正しいビートが一定のリズムで響き、舞台の中央だけが明るくなりました。

ライトが照らした先に、何かが見えてきました。それは足です。素足が2本、激しく床を踏み続けています。

先ほどから聞こえていた規則正しいビートは、足で床を踏み鳴らす音だったのです。



暗がりの中、ビートを踏み鳴らし続けるダンサー

1人きりで踊り続けるダンサー。

やがてもう2人が袖から現れ、ダンサーは順を追って増え、合計7人になりました。

時に1人が離れたり……二手に分かれたり。ダンサーたちが魚群に見えてきます。



魚を連想させる、つかず離れずの動き

群れから離れることがあっても、すぐにまた戻ります

手のひらや向こうずねには塗料が塗られています。そこに照明が当たり、陽光を反射するウロコのように光ります。



民族舞踊をベースにしながらも、斬新なダンス

ダイナマイト漁の爆弾が投げられ、海は破壊され、魚群には死がもたらされます。魚たちに死が訪れた瞬間、ずっと続いたビートが止まってしまいました。

しかし、少しずつ生命の営みが始まります。足で床を踏み鳴らすダンサーが1人、また1人と増えて、徐々に厚みを増すビートに自然の再生を感じました。



復活を表すかのように、両手を大きく挙げるシーン

手を振り上げ、踊る少年

ダンスを支えるのは足踏みの音と照明だけ。実にシンプルで原始的なパフォーマンスでありながら、そのシンプルさのために想像力が刺激されました。時に荒く、時に静かに魚たちを取り囲む波、見たこともないインドネシアの島や漁で生計を立てる人々、脈々と続く命……が脳裏に浮かんできました。



公演終了後、拍手に応えるエコ・スプリヤントさんと少年たち

スタンディングオベーションが起こり、拍手が鳴り響きました。

客席からの大きな拍手に、少年たちは達成感にあふれた笑顔を見せています。全身汗にぬれているのが、水からあがったばかりの魚のようでもあり、このダンスの熱さ、激しさの証拠でもありました。

約1時間にも及ぶ、少年たちの斬新で現代的なダンスは、観客の胸を熱くし、心を震わせたのでした。

舞台芸術は国や文化を超える！

「このダンスを見て何を感じましたか？」と観客の方に伺いました。鑑賞を終えた外国人女性は、「たくさんのことを感じました。言い切れません……。踊りは美しく、規則正しく刻まれたリズムも心に残りました。足踏みの音は心臓の響きですね、何があろうと鳴らし続けようとする命の鼓動です。それに、このダンスは娯楽のための踊りではありません。インドネシアにおけるサンゴ礁の再生や、人々の暮らしを思索するための舞踊です。本当に感銘を受けました」と、興奮気味に語ります。

ある演出家は次のように評します。

「ミニマル・ミュージック（音素材を最小限に抑えた、音型の反復を特徴とする現代音楽の形式）ですよ。あの足の響きを聞いていると、単調なので最初は不安になるけど、ずっと聞いているとテンションが上がっていきます。舞台芸術のカテゴリーに限定しておくのがもったいないですね、ロックフェスとかに出てもいいパフォーマンスだと思います」

演目終了後の会場には、興奮の余韻がしばらく残っています。

「上演後に観客の大きな拍手を浴びるということは、やはり舞台芸術でしかできないことですよ。舞台に関わっていて良かった」と演劇制作者の女性が舞台芸術の魅力を教えてくださいました。

伝統舞踊をベースにしながらも、少年たちが斬新でクールに踊る『Cry Jailolo』。インターネットの発達やSNSの浸透で、今は世界各地の人たちと同時につながる時代ですが、一堂に会して同じ空気を吸いながらパフォーマンスを見て、会場全体がパフォーマンスも含めて一体感を抱く。そういう「熱気のシェア」のようなものは、人間が古来やってきた「つながる手段」であって、今の世でもかけがえがないものかもしれません。

TPAM in Yokohama 2015 の開催概要はこちら

企画名	TPAM in Yokohama 2015
主催	国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2015 実行委員会 (国際交流基金アジアセンター、公益財団法人神奈川芸術文化財団、公益財団法人横浜芸術文化振興財団、PARC - 国際舞台芸術交流センター)
日程	2015年2月7日(土)～2月15日(日)
会場	ヨコハマ創造都市センター (YCC)、KAAT神奈川芸術劇場、他
URL	http://www.tpam.or.jp/2015/

いいね！ 1 ツイート 0

いいね！ G+